



協栄産業株式会社

茨城県立笠間高等学校



研修後、協栄産業古澤社長と記念撮影

## 『分ければ資源、混ぜればゴミ』知っていますか？ PETボトルリサイクル！

日本有数のPETボトルリサイクル技術を誇る協栄産業グループ。今回、茨城県立笠間高等学校のみなさんが、協栄産業グループの最新工場＝ジャパンテック株式会社・東日本PETボトルMRセンターを訪問し、高校生環境研修を実施しました。高校生にとって最も身近な飲料容器PETボトルのリサイクルを知ることで、限りある資源を次世代につなげるため、今の私たちに何ができるかを学ぶことができました。

### 海外でリサイクルされていた日本の使用済みPETボトル・・・しかし

学生服やランドセル。「リサイクルの優等生」として様々な製品に生まれ変わるPETボトルですが、実は日本で回収されたボトルの約6割が海外に輸出され※、とりわけ繊維産業の盛んな中国でポリエステル繊維に生まれ変わってきました。ところが2017年、中国政府は一部の生活系資源ゴミが汚れたまま届けられ、環境汚染を引き起こしていると発表。2018年から使用済みPETボトルの輸入を停止しました。このため日本は今、行き場を失った大量のPETボトルをリサイクルしなければならない状況に直面しています。

※財務省貿易統計の2016年データを元に算出

### 日本初！ PETボトルが再びPETボトルに

2011年、協栄産業グループはPETボトルを再びPETボトルに戻す「ボトルtoボトル」リサイクルを日本で初めて実現しました。その翌年には世界初のリサイクル樹脂100%の透明ボトルが登場※1、ボトルを作る際に新たな石油資源を一切使う必要がない「究極の資源循環」を実現しました。またリサイクル樹脂は石油から作った樹脂と比較し、63%以上のCO<sub>2</sub>排出を削減できることが分かっており※2、こうした優れた環境効果から、国内に溢れるPETボトルの有効活用の担い手として、「ボトルtoボトル」は大きな期待を集めています。

※1 メカニカル手法では同社が世界初 ※2 同社のデータを元に三菱UFJリサーチ&コンサルティングが算定



再生原料を使って作られた様々なPETボトル製品

### みなさんにもできること

資源のない日本ですがPETボトルという貴重な資源を国内循環することで、地下資源の利用抑制と温暖化防止に繋がります。飲み終わった後にラベルを取って中を洗うことで、その後に生まれるリサイクル樹脂の品質が向上し、再びPETボトルに生まれ変わることができます。是非協力を続けて頂き、地球の未来を明るくしましょう。



工場内視察（研修風景）



選別工程視察（研修風景）



再生原料を使って作られたサッカーユニフォームと学生服

#### 茨城県立笠間高等学校

#### 感想

##### 勝山 真衣さん(1年)

今回の工場見学を通して、環境やリサイクルのことを詳しく知ることができました。また最新のリサイクル技術を間近に見ることができ、この貴重な体験を大切にしていきたいと思いました。

##### 鈴木 紗菜さん(1年)

PETボトルをリサイクルすることで私たちの身近な生活品になっていることを知り、大変驚きました。私はあまりリサイクルに興味がなかったので、これを機にリサイクルを意識して生活していきたいと思いました。

##### 石井 麻里奈さん(1年)

普段見ることができないところを見ることができ、有意義な研修になりました。また改めてPETボトルがすごいと感じました。PETボトルをリサイクルすることで、その分石油を使わずにすみ、世界を救っていることがよくわかりました。